

議会だより けんぶち

155号

2026年9月発行
剣淵町議会

2次元コードをスマートフォンで
読み取ると、動画や議会だよりの
バックナンバーが閲覧できます。



剣淵町議会
YouTube



剣淵町
議会だよりHP



第2回定例会・第3回臨時会	2
一般質問	3～6
追悼・町村議員研修報告	7
特集・河川整備状況現地調査・編集後記	8

第2回定例会 6/18～19

第2回定例議会では、一般質問に4名が登壇しました。

議案は、条例の一部改正4件、令和8年度一般会計補正予算、令和7年度一般会計繰越明許費ほか、農業委員会委員の任命、財産の取得、その他報告事項1件、発議4件を審議し、議案は原案のとおり全て可決しました。報告については株式会社レイクサイド桜岡の令和7度の経営状況が詳しく報告されました。

※一般質問は3～6ページ参照

補正予算

●一般会計では1億4304万円を追加しました。

今回の補正予算では、歳入で地方交付税1249万円、農業費補助金1881万円の交付を受け、地域福祉基金より1300万円を繰り入れ、町債農林水産業債として8170万円を起債します。

歳出では、地域力創造アドバイザー業務および地域活性化企業人の招聘、剣淵ひらなみ荘屋上防水改修工事補助、農業対策補助事業、並びに道の駅レストランエアコン更新などがあります。

質疑

岡議員

地域活性化企業人、地域力創造アドバイザーの活用により、どのような効果を期待しているか。
西岡町長

民間や他の組織の考え方を取り入れることで、これまでにない組織構成となり、組織文化を変えるきっかけになると考えている。特に企画や地方創生の分野では、民間に近い視点を取り入れながら進めていく必要があると考えている。

酒井議員

ひらなみ荘の改修に関し、以前から補修の必要性が出ていたようだが、それが町側に適切に伝達されていなかったのではないか。

板東副町長

補修が必要な箇所については、その都度必要な対応してきた。今回、大規模改修が必要になった旨の連絡を受け、対応することとなった。



レイクサイド桜岡経営状況

ホテル部門、道の駅部門合わせての総売上は2億1684万円（前年費▲3.3%）。ホテル部門は、宿泊者は前年比▲3.2%だが、室料の見直し等により増収。総入館者は前年比▲2.7%。道の駅部門は、レジ通過者が前年比▲9.1%。農産物直売所の売上は前年比▲16.6%、それ以外の販売は対前年比+4.5%。これらを合わせて、営業利益は前年より減収となったものの、純利益は698万円の黒字となりました。

第3回臨時会 7/28

●一般会計に3383万円を追加しました。

歳入項目は、国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金、および農業費補助金等により増収。

支出項目は、物価高騰のための高齢者・ひとり親世帯等生活支援事業、スマート農業、および地域農業構造転換支援事業補助金等となります。

この他、剣淵町国民健康保険事業特別会計に対し、186万円が補正予算として追加されました。

特別功労表彰

剣淵町長を3期就任され、昨年退任された早坂純夫氏に対し、町として特別功労表彰を行うことが承認されました。



任期：令和8年7月20日～令和11年7月19日

剣淵町農業委員会委員名簿

氏名	住所	年齢
◎漢 寿夫	仲 町	55歳
岩田政之	元 町	67歳
加藤 裕	元 町	69歳
○中荃 稔	屯 田 町	51歳
大河琢磨	旭 町	46歳
児玉博通	西 岡 町	52歳
松本正貢	西 岡 町	53歳
及川公幸	西 原 町	61歳
尾崎克哉	西 原 町	47歳
阿部 充	東 町	56歳
窪井義和	東 町	55歳
小柳一明	藤 本 町	61歳

◎会長 ○会長職務代理



たけうち よしあき
竹内佳明 議員

開基130年(2028年)に向けて、町史編纂、 カントリーサイン変更、記念事業について伺う



動画はこちら



町長 町史続史は開基140年に向けて検討、
カントリーサインの変更は公募方式で進め、
各種記念事業等は庁内で協議・調整を進める

竹内佳明 議員

剣淵町は令和10年(2028年)に屯田兵による入植から開基130年を迎える。10年ごとの節目にあたり、記念事業を含め、十分な時間をかけるために今から検討や準備を始めることが必要と考える。町史編纂作業は、毎回相当な労力と事務量が生じ、記録は継続し後世に伝えることが重要と認識しているが、町史そのものの検討やデジタル対応も含めて伺う。

西岡将晴 町長

剣淵町史続史一は、平成11年12月に、続史の二は、令和2年の3月に発行している。発行に際しては、町史編纂さん室及び町史編纂委員会を設置して、編集作業を進めてきた。町史の編集については、資料の収集・整理や内容の精査など、相当の期間を要することからこれまで町史編纂さん室を概ね3年間設置し、編さん作業を行っているのが実情で、次期町史となる続史三は、開基140年を一つの節目として、発行に向けた検討を進めていきたい。

デジタル版の発行は、町史が約900ページに及び分量が多いので電子書籍としての販売方法などの課題もあり、調査、研究を進めていきたい。



剣 淵 町
Kembuchi Town

竹内 議員

平成2年から全道179市町村に設置されているカントリーサインの変更について、以前も同様の質問をしたが、明快な回答は得られなかった。今般、130年というひとつの節目で見直す絶好の機会と考えるが、見解を伺う。

西岡 町長

カントリーサインの変更については、開基130年記念事業の一環として設置を検討しており、デザインは公募方式を考えている。多くの皆様に御参加をいただくとともに、絵本作家の方々にも応募いただければと考えている。

竹内 議員

最後に、町民参加・参画の記念

事業開催も検討すると思うが、どのように進めていくのか。さらに施設の老朽化も課題となっているところだが、こころは130年という節目に当たり、施設の整備も含めて今後の進め方について伺う。

西岡 町長

町民参加型の事業については、開基120年の際と同様に、各課から事業案を募り、庁内での協議・調整を行いながら検討を進めていきたい。施設整備については、施設の利用状況、老朽化の程度、優先順位などを総合的に勘案しながら、必要な修繕や改修に取り組んでいきたいと考えている。

竹内 議員

記念事業を開催する場合でも町民センターの活用が図られるかと思うが、40年近く改修が必要では。

西岡 町長

リニューアルとまでいかなくても、利便性を上げるためトイレの改修やクロスなどの張り替え等もある。利用される町民の皆様が快適に使いやすい施設にすることは、記念事業に関わらず必要なので、財政と相談しながら実施していきたい。

食肉製品の商品化に伴い、加工センターの設備改修を求められた場合、対応する気構えは



さかい おさむ
酒井 修 議員

町長 必要な要件を満たす方向で前向きに取り組む方針



動画はこちら



酒井 修 議員

ソーセージやハンバーグ等の製造販売については、取得が難しい食品衛生管理者の設置が義務付けられており、実現することは難しいと認識している。

ただ、実現に意欲的な方があり、何とか食品衛生管理者の資格を持つ方の協力も得られ、実現に向けて大きな一歩を踏み出したと感じている。これが実現すると、非常に人気のある製品であると思っており、剣淵町にとっても、貴重な食肉加工品であり、ふるさと納税の返礼品としても大きな影響があると考えている。

危惧しているのは、加工センターの設備が食肉製品の商品化に対する関係機関の指摘に対応しているのか。そこが疑問であり、例えば、設備の改修を求められた場合、町として対応する気構えがあるのかどうか伺いたい。

西岡将晴 町長

加工センターが、関係機関の指摘に対応をしているか否か、疑問視されている点であるが、保健所の担当職員の施設の巡回指導を受けており、指摘事項としては何もないことから、施設設備、器具等

には今のところ問題がないと思っている。

しかし、加工センターは、御存知のとおり建設から40年以上を経過しており、施設や当初から使用している機械器具類は老朽化が著しいことは確かで、保健所の指摘を受けた際には事業の継続や展開の可能性を検討し、必要な要件を満たす方向で前向きに取り組む方針である。

町の加工研究施設が安全に活用され町として地域産業の活性化に繋がるよう、改善に努めていきたい。

酒井 議員

事務的な申請作業等々進めていく予定をしていると思うが、今までは商品として出していないので、自家消費用のものを作る施設と販売する施設と、指摘が違ってくるのかという思いがある。

例えばある程度の改修の負担がかかることになった時に、どのような対応をしてもらえるのか確認したい。

西岡 町長

この事業は販売目的というよりは、やはり地域の繋がりがづくりとしての意味合いが強いと思ってい

る。町としては規模にもよるが、対応でき得る範囲内のものであれば、販売に資するような整備というのは行ってもいいと思う。

例えばふるさと納税である程度大量に生産をしていくというようなことになった場合は、助成するなり、中小企業の補助金を使って強化をしていきたい。

酒井 議員

もし多額の費用がかかるということになれば、この事業についても、考え直していかなければならない。言われたような各種助成金を使った中で、実現できるものなら実現していただければと感じている。その中で、指導や問題が出た場合にはバックアップをお願いしたい。

西岡 町長

農業振興センターで行っている地域の方々いろんな活動をしていくメリットがあるので、柔軟に考えながら、検討していきたい。

酒井議員は、役場職員のユニフォームの作成についても質問しています。



ふるや ひでき
古屋秀樹 議員

剣淵町が保有する建築物・土木インフラの現状と、それらを踏まえた維持管理、今後の措置について伺う



動画はこちら

町長 各施設、インフラの長寿命化による財政負担の縮減、平準化、適正配分に向け、計画的な施設管理を行い、利用者の安全を確保し、施設維持のための修繕を進め、予防保全を基本として維持管理を進める

古屋秀樹 議員

(1) 町が保有する主な施設・インフラについて、公共施設等総合管理計画を踏まえ、以下を伺う。

①緊急修繕の要否

②耐用年数及び中長期の維持・修繕計画

(2) 資金計画に係る対応方針

①維持・修繕計画のための自己財源と依存財源の目処

②物価上昇を踏まえての増大する支出への対応と抑制

(3) 施設運営の全体的な改善方法およびそのための外部専門家の活用の有無

西岡将晴 町長

(1) 町が保有する建築物、各種インフラは、現在、一斉に老朽化しつつある。町として、平成23年3月策定「剣淵町公共施設等総合管理計画」を上位計画とし、令和3年3月に具体的な維持管理計画としての「剣淵町公共施設等個別施設計画」を定めた。この中で、各施設、インフラの長寿命化による財政負担の縮減、平準化、適正配分に向け、計画的な施設管理を設定し、実施している。

現在、施設の中で、緊急修繕が必要なものは確認されていない。今後、利用者の安全を確保し、施設維持のために修繕を進め、予

防保全を基本として維持管理を実施する。

(2) 資金計画については、支出抑制と共に、公的補助金、起債の中間条件の良いものを戦略的に確保したい。同時に、施設寿命の延伸とライフサイクルコストの縮減をめざす。物価高については、事業のスリム化、施工時期の平準化で対応している。

(3) 各施設の利用環境維持のため、建設課職員や外部施工関係者による現地確認を行い、専門的な知見を基に必要な改修をしている。

今後、町として加速する人口減少、年齢構成の変化に対し、従来の措置では対応が困難な面もある。複数施設の機能集約、複合化、統廃合を視野に入れ、全体の最適化を考える。その時には行政の経験値に加え、外部の専門的知見、客観的なデータ分析が有効であり、コンサルタント、学識経験者、民間企業からの専門人材の活用を検討する。

杉村朋之 建設課長

個別施設、インフラの状況、維持管理計画について説明あり。

舗装道路は、主要路線69.6kmのうち、96%が健全。年2千万円程度の補修を実施。橋梁は、緊急対応が必要な橋梁はないが、20年後、建設後50年を経過するものが

81%へ増大。年2千〜3千万円の予防保全を継続。

公営住宅は、約5割が耐用年限を超過。小修繕を15年、大規模改修を30年周期を目安に計画を策定。老朽化住宅は、用途廃止や集約化も検討。

下水道は、計画に基づき、重要度、故障時影響度に応じ、状態監視保全、時間計画保全、事後保全の3区分により維持管理を実施。

上水道は、桜岡浄水場は平成26年度、西岡浄水場は、平成27年度に更新を実施。

役場庁舎は、耐震性は確保されているが、築46年が経過し、大規模改修が必要との診断。必要な改修を行いつつ、長寿命化を図り、将来的な更新を検討。

小中学校施設は、目標耐用年数を100年とし、今後、築50年程度で長寿命化改修を実施。

小中学校及び給食センターは、将来的な複合化や集約化も検討。

健康福祉センターは、築30年が経過。町民高齢化の中、重要な施設として長寿命化を図り、安全確保と利便性向上に努める。

レークサイド桜岡は、築30年が経過。建物診断では、早急な建替は不要。経営継続しつつ、宿泊施設、浴場設備等の、必要な修繕、更新を計画的に実施する。

地域おこし協力隊の選考に外部委員を加えてはどうか



さおとめ てるたか
早乙女晃隆 議員

町長 参加者の負担を考慮し現行を維持する



動画はこちら



早乙女晃隆 議員

地域おこし協力隊は、本町の地域課題の解決や活性化に向けて重要な役割を担う人材であり、採用にあたっては、行政の視点だけでなく、実際に協力隊と関わる地域住民や受け入れ団体の視点も重要だと考える。役場職員以外の外部委員を選考に加える考えは無いが、町長の見解を伺う。

西岡将晴 町長

選考については、副町長をはじめ関係課長で構成する「地域おこし協力隊検討委員会」において協議を行っている。協力隊の増加に伴い、今後さらに協議の機会が増えていくと想定する。地域おこし協力隊1名の募集にあたり、募集要項の確認、書類選考、面接結果の協議など複数回の会議開催が必要となることに加え、外部委員との日程調整に一定の時間を要することが想定される。

また、地域おこし協力隊の業務内容は多岐にわたり、それぞれの募集内容に応じた専門的な視点が必要とされることから、外部委員に継続的に参画いただくことは負担が大きくなると考える。現時点においては、庁内で組織する地域おこし協力隊検討委員会や選考等を行う体制を維持継続し、町民の皆様から要望や意見がある場合には、担当課を通じて募集内容等に反映させながら対応したいと考えている。

早乙女 議員

町長は、これまでの議員協議会

などで、地域おこし協力隊の活用が積極的な姿勢を示されてきたと受け止めている。一方で、最近の募集内容を見ると、少し行政ニーズに沿った業務が中心となっており、印象を受ける。私は地域から求められる多様な分野で、幅広く募集を行い、その中で、10人中1人でも、本町に定住し、地域に根づいていただければ、大きな成果だと考えている。仮に、地域住民など外部委員が選考に加わり、行政とは異なる視点から人材を評価した場合、調整が大変だという回答であったが、多様な視点を取り入れることは一定の意義があると考えている。それ以外で行政運営上、何か支障や課題があれば、伺いたい。

西岡 町長

協力隊について積極的に考えており、本町においては、少なくとも2桁以上に増やしていきたい。指摘のあった行政側のニーズに偏っているということも行政側の広報などPRを、まず委託型でやりながら、町内の企業のほうに入っている辺り、町内の企業は、積極的に進めて参りたい。

乳がん検診の費用助成について

早乙女 議員

特に40歳代は高濃度乳房の割合が高く、マンモグラフィだけでは発見が難しい場合があることから、

超音波検査との併用が有効とされている。本町においても乳がん検診への早期発見と受診助率向上のため、併用した乳がん検診への費用助成を検討する考えはないか伺う。

西岡 町長

現在のところ、がん検診により医師の判断で、別途の検査が必要の場合は、保険適用になることから、両方の検査をした方がよいという考えもあるかと思うが、現時点では、国のガイドラインよりも対象年齢、回数も拡充しているとともに、両方の検査を推奨していない医師もいることも確認している。今回の見送り、道内の自治体の動きが変われば、検討をしつかりしていきたい。

早乙女 議員

地方自治体では、大規模な医療機関へのアクセスが都心部に比べて限られている。住民は医療面で少なからず不安を抱えていて、このような地域だからこそ、検診や医療費助成の充実が、町長の掲げる安心の福祉の部分にも繋がっている。重要な施策だと思ふ。住民福祉の向上はもとより、子育て世帯や若い世帯の人口流出、さらには移住定住の促進にも繋がるのではないかと。

西岡 町長

まず検査をしつかり受けていただくよう注視していきたい。その後、先進的な他の自治体では、取り組んでいないことに挑戦をしていくという段階に移っていききたい。

追悼

佐藤宏和議員におかれましては、去る令和8年8月6日、肺炎のため逝去されました。



令和3年初当選から、2期目の任期中であり産建文教常任委員長を務められていました。

農業者でもある佐藤議員は、農業政策はもとより、町民の声に耳を傾け、町政の発展と町民福祉の向上のため尽力されました。その御功績と温厚なお人柄は、私たち議員の心に深く刻まれております。ここに生前の御功績を偲び、心から哀悼の意を表しますとともに、ご遺族皆様に謹んでお悔やみ申し上げます。

佐藤 宏和氏 経歴

令和3年11月28日

初当選

令和3年12月15日

剣淵町議会議員

産建文教常任委員

令和5年12月20日

議会広報委員

令和7年11月23日

2期目当選

令和7年12月15日

剣淵町議会議員

産建文教常任委員長

議会運営委員

令和7年12月24日

議会広報委員



北海道町村議会 議員研修会

令和8年度北海道町村議会議員研修会

令和8年度北海道町村議会議員研修会が7月2日、札幌コンベンションセンターにて開催され、初めに関東学院大学法学部地域創生学科教授、牧瀬稔氏による「地方議員への12の政策アイデアから人口維持を目指す実践事例」について講義を受け、内容としては、地方創生のふりかえり、地方創生の政策目標、日本の将来人口推計について、全国的にもそうであるように、我が町でも少子高齢化の進展に対応し、多様な人材確保及び魅力ある街づくりが重要であり、全体的に問題提起から人口減少につながる視点で話をされていました。

次にジャーナリスト須田慎一郎氏による「どうなる政治・経済」と題した講演をいただき、今後の経済見通し、高市首相の施政方針演説について語られました。

翌日は、子育て世代を呼び込み令和4年から人口増加に転じている南幌町を訪れ、「南幌ニュータウンみどり野」や室内遊戯施設「はれつぱ」を視察し剣淵町の町づくりとして今後参考にする貴重な機会となりました。

北海道町村議会 広報研修会



令和8年8月18日ポールスター札幌において、議会広報サポーターの芳野政明氏により「議会の見える化&住民との信頼関係」と題し、議会広報の基本と信頼関係と編集について講義を受けたのち、実際の他町村の広報紙を題材にクリニックが行われました。翌日は札幌下水道科学館で下水処理に関する知識を高めたのち本町と連携協定を結んでいる㈱ライナーネットワークを訪れ、前職で他町の広報誌を担当し受賞歴のある藤原氏のレクチャーを受け、余白を意識することで見やすい紙面になることなどを教わり、とても有意義な研修となりました。

特集

けんぶちの人

「味のよし武」を継承し、
『よし武S』へ

(Sはセカンド、新、哲志の
Sからとったものだそうです)

7月に皆さんから惜しまれて閉店した「味のよし武」さんの後継に東町にお住まいの笹田さんが経営することとなりました。

笹田さんは、若い頃より料理に興味があり、一時期はキッチンカーでの開業を目指していましたが、周囲からの勧めもあり、味のよし武を継承し、食堂経営に方向転換しました。

オープンは9月初旬を目処に考えており、お昼はラーメン、カレー、丼物等を提供する予定です。順調に行けば、その後アルコールも含めた夜の営業と、お弁当販売を考えているようです。

定休日は、月曜日ともう1日設定する予定だそうです。

皆さんのご愛顧を、よろしくお願いします。



笹田 哲志さん(58歳)

音無川・剣淵川・六線川に係る
改修工事説明会

7月29日、音無川・剣淵川・六線川に係る河川改修、伐木の説明会が行われました。

旭川建設管理部から用地管理室長、事業室長、土別出張所所長等が出席され、剣淵町からは町長、議会議員、担当職員が参加し、工事内容と今後の取組について説明を受けた後に、音無川・剣淵川の現地で伐木等の確認を行いました。

編集後記

今号では、佐藤宏和議員の計報をお伝えすることとなりました。ともに議会活動に取り組んできた大切な仲間との突然の別れは、大変残念であり深い悲しみを覚えております。心よりご冥福をお祈りいたします。

さて、今号の表紙を飾るのは、剣淵中学校吹奏楽部の皆さんです。13人という少人数ながら、名寄地区吹奏楽コンクールB編成において見事、全道大会への出場を果たしました。今後も仲間と心をひとつに素晴らしい演奏を届けてくれることを期待しています。

議会だよりは、議会でのような議論が行われ、町政がどのように動いているのかを町民の皆さんにお伝えするとともに、町の今を伝えていく役割があります。これからも、より身近で読みやすく、町民の皆さんに議会を知っていただける「議会だより」を目指してまいります。今号も最後までお読みいただき、ありがとうございました。

(岡)